

「さっぼる雪まつり」に毎日新聞社と共同出展した「台湾中正紀念堂」大水像のテープカット式典に出席する機会があった。2月5日のことだ。雪まつりの氷像を初めて見た私は、光り輝く姿に目を奪われ、制作技術の高さ、透明感あふれる美しさに感動した。台湾ほか海外からの観光客が上げる称赞の声は、しばし寒さも忘れさせてくれた。私は観光と文化のパワーが国境を超え、人々を融和させることを強く感じた。

台北駐日経済文化代表処

代表 沈 斯 淳

文化・観光が日台関係深める



ら、台湾の人々がいかにタカラヅカの台湾公演を待ち望んでいたかわかる。来年6月からは、東京と九州で台北の故宮博物院特別展が開催される。どちらも初めての実現であり、台日双方の文化交流に新たな一ページを開く。

東京ドームで開催されたワールド・ベースボール・クラシック(WBC)2次ラウンドも台日双方のファンの注目を集め、私も3月8日夜の台湾対日本の試合を観戦した。試合は白熱したが、応援は理性的であり、東日本大震災への支援に対し「台湾、ありがとう」のプラカードを掲げ、台湾のファンとともに台湾チームの応援に回る日本人もいた。

勝負が決まった後は、双方のファンが両チームに大きな拍手を送り、会場は感動に包まれた。野球ファン同士の連帯感にみられるように、文化・スポーツ交流は、人々の相互理解と友好をいっそう深めることができることを確信した。

台湾と日本の人々は、いずれも相手に対し親近感と信頼感を抱いており、お互いを観光したい旅行先の最上位に挙げている。特に台日航空自由化(オープンスカイ)協定締結後、台日間には新しい航空路線が次々と開設され、現在、毎週約350便が運航されている。往来者数も昨年は双方合わせて300万人に迫り、最高記録を更新した。このようなことから、台日間の人々の交流はますます緊密になっていくことがわかる。

(寄稿)

馬英九總統は2月7日、台北の国立歴史博物館での「国際芸術文化交流展」に参加するため訪台したガラス工芸作家、黒木国昭氏と会見した。馬總統は「私は『文化興国』を理想としている。(物質的な)建設は国を強くできるが、文化こそ国を偉大にできる」と文化交流の大切さを説いた。これまでに築いた良好な関係の基礎の上に、双方が文化、観光、青少年などの交流をさらに強化し、互いの理解と信頼を深め、緊密な関係をいっそう促進していくことを心より望んでいる。